

# 「伊勢湾」再来被害2.3倍

## 最悪コース推計 愛知・三重23万棟



1959年9月の伊勢湾台風が現在、室戸岬(高知県)の西側に上陸して四国から兵庫県を縦断するコースを進んだ場合、建物被害は最悪となり、風雨の影響だけでも当時の約2・3倍に上ることがわかった。横浜国立大などのグループが災害時の建物被害を推計するシステムを開発して解

析した。システムは今年6月からウェブサイトで無料公開している。システムは、あいおいニッセイ同和損害保険と保険仲介会社「エーオンベンフイルドジャパン」、横浜国大が共同開発。全国の建物約5000万棟について、木造・鉄筋の種類や、屋根の劣化状態などを衛星写真から推定し、台風による強風や大雨、地震の揺れの程度に応じて建物の何割が損壊するかを計算する。元々は、保険業界内での共有システムだったが、昨年、台風災害が相次いだことを受けて、一般向けに開発し、ウェブサイトで「cm app」で公開。2015～18年に大きな被害をもたらした七つの台風と伊勢湾台風、16、18年の三つの地震(熊本、大阪北部、北海道)について、クリックすれば瞬時に都道府県ごとの建物被害のシミュレーションが表示される。

伊勢湾台風については上陸時の中心気圧と同じ929hpaで、実際の進路から東西にずらした19パターンを進路を設定。当時の建物被害は愛知県8万6511棟、三重県1万7472棟だったが、最悪のコースを進んだ場合、愛知県が1・4倍の12万3898棟、三重県は6・4倍の11万2024棟の建物被害が見込まれることがわかった。台風データの提供でcm app開発に携わった横浜国大教育学部の筆保弘徳准教授(気象学)によると、伊勢湾台風の進路をさらに細分化して120パターンで

解析した結果、進路が東に約40kmずれていたら、名古屋港の潮位は3・89mからさらに約30cm高くなってい

たという。筆保准教授は「明治以降、最悪の被害を出した伊勢湾台風の恐ろしさを知ってほ



試合前に黙とうする両チームの選手と観客(杉本昌大撮影) 25日、岩手県釜石市の釜石鶴住居復興スタジアムで

# 不屈の釜石 熱く

ラグビー・ワールドカップ(W杯)日本対ジーウルグアイ岩手県釜石市で行会場は、東日本大波被害を受けた地された釜石鶴住居スタジアム。1万60ほぼ埋まり、試合や観客らは震災の黙とうをささげた。地元誘致には多関わり、新日鉄釜一部で日本選手権支えた石山次郎さ震災直後、V7時と復興支援などに「スクラム釜石」を活動を進めてきた。がひとつのものに熱くなり、笑顔には力になると思っ歓声で沸くスタジを細めた。



増毛法 ツン 実験実施中 20-62-7109

架空請求はがき 語る。

「訴訟通知センター」 川市の無職女性68